

# 尼崎市提案型事業委託評価表

	評価実施年月日	令和3年3月23日
	作成年月日	令和3年4月23日
事業名	市民福祉のつどい開催事業	
事業者の名称	NPO法人月と風と	
契約期間	令和2年 4月 1日 ~ 令和3年 3月31日 (二期目 1年目)	
業務の概要	市民福祉のつどいの企画運営業務	
所管課・課長名	健康福祉局 障害福祉担当部 障害福祉課 田岡 清	
評価対象期間	令和2年 4月 1日 ~ 令和3年 3月31日	

評価項目	説明	評価	評価コメント
<b>1 事業の効果</b>			
市民サービス	市民サービス向上の取組がされているか	<b>A</b>	意見交換会や交流会等を通して、障害の有無にかかわらず多様な出会いの場をつくることできており、そこから新たなつながりや関わりが広がっている。令和2年度は、商業施設でイベントを開催したことにより、これまでとは異なる層の参加があったほか、障害者からのアイデアで開催された「声のないお店」や「車いすリレーマラソン」により新たな交流が生まれ、市民のシチズンシップ等の向上につながった。
市民ニーズ	市民ニーズが的確に把握されているか		
シチズンシップ等の向上	市民のシチズンシップや団体の公共的分野を担う力の向上につながっているか		
地域経済活性化	地域経済の活性化への配慮がされているか		
経費節減等	効率化、経費節減の取組がされているか		
<b>2 事業実施状況</b>			
計画性・透明性	計画的に事業が実施され透明性が確保されているか	<b>A</b>	事業理念や方針を明確に掲げ、福祉に造詣の深いコアメンバーを中心としたオープンミーティングでの意見交換等を積み重ねながら、積極的かつ計画的に事業を実施した。
収支状況	収支状況が適切かつ良好であるか		
<b>3 事業執行体制</b>			
人員配置	合理的な配置であるか	<b>B</b>	事業に賛同した幅広い世代の多くのボランティアが運営に関わり、一緒に事業を盛り上げている。また、プロジェクトや役割ごとにリーダーを定めて、事故時等の責任の所在を明確にしていた。
危機管理	事故時等の体制等が整備されているか		
情報管理	個人情報等の管理が適切であるか		

<b>主に取組んでいる事業内容・進捗状況</b>
<p>イベント開催に向けて、オンラインによるイベントを多数実施した(説明会兼意見交換会2回、オンライン交流会2回、10分ミーツ14回、ミーツの学校2回、花火deミーツ1回、アートキャラバン2回、手話サークル5回、しょうがいのある人の生活バーチャルツアー1回、企画のつくり方等2回)。Facebook等のWEBサイトとSNSでの情報発信、尼崎市立の小学校、中学校、高等学校へのチラシ配布や、記者会見などによる広報活動を実施した。</p> <p>新型コロナウイルスの感染予防に配慮し、イベントの開催を2日間(11月8日:「声のないお店」【パイナワーフ】、11月14日:「ミーツ・ザ・福祉2020」【あまがさきキューズモールほか】)としたほか、ZOOMやYoutubeを活用し、オンラインで参加できる仕組みも取り入れた。例年とは異なり、大きく形を変えての開催となったが、参加者は11月8日が24名(満席)、11月14日は約450名(オフライン350名、オンライン100名)であった。</p> <p>また、開催当日にアンケート、開始後に振り返り会(1回)を実施し、意見収集を図った。</p>

<b>取組んでいる事業内容等の評価</b>
<p>商業施設でのイベント開催や、「車いすリレーマラソン」の実施、オンラインで参加できる仕組みを取り入れたことなどにより、幅広く、多様な分野で障害のある人とならない人との交流が生まれ、相互理解の場を数多く創出した。説明会や振り返り会、イベント当日には手話通訳者を配置するなど、障害のある人への情報保障の配慮がなされている。また、「ボランティア派遣制度」によりボランティア同士の交流も多数生まれ、障害についての相互理解の輪が広がった。</p> <p>本事業での交流がきっかけで生まれた派生プロジェクトである、有志による福祉に関する勉強会(「ミーツの学校」)や「花火・de・ミーツオンライン」、ミーツ手話サークル「しゅわわ」といった活動が展開されており、今後も新たな活動の循環や人的ネットワークの広がりを期待している。</p>

総合評価	評価の理由、今後の課題等
<b>A</b>	<p>イベント当日だけでなく、一年を通して、福祉や障害について考える機会や障害のある人が様々な分野で活躍する場を創出し、幅広い世代の多くのボランティアが関わるなど、市民のシチズンシップの更なる向上に寄与している。障害のある人がより一層、主体者として参加していく仕掛けや効果的なアプローチ等の更なる深化が期待できる。</p> <p>一方で、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況の中で、感染予防対策を講じながらいかにして多様な出会いや交流の場を確保していくかが課題であると考え。</p>

- \* 評価は、A～Dの4段階評価とする。
- \* 確認調査の結果をチェックリストに記入する。更に1～3の大項目ごとに評価を行った後、総合評価を行うこと。
- \* (評価項目1) 行政実施時と比較して、A:非常に効果があった。 B:効果があった。 C:同等の実施水準であった。 D:実施水準が下がった。
- \* (評価項目2, 3) A:非常に良好であった。 B:良好であった。 C:やや改善の余地があった。 D:多くの改善すべき点が見受けられた。

尼崎市提案型事業委託評価表

評価実施年月日	令和4年3月18日
作成年月日	令和4年8月12日

事業名	市民福祉のつどい開催事業
事業者の名称	NPO法人月と風と
契約期間	令和3年 4月 1日 ~ 令和4年 3月31日 (二期目 2年目)
業務の概要	市民福祉のつどいの企画運営業務
所管課・課長名	健康福祉局 法人指導・障害福祉担当部 障害福祉課 田岡 清
評価対象期間	令和3年 4月 1日 ~ 令和4年 3月31日

評価項目	説明	評価	評価コメント
<b>1 事業の効果</b>		<b>A</b>	イベント当日をはじめ、オープンミーティング等の様々な話し合いの場面においても手話通訳者の配置や情報支援機器を有効に活用するなど、障害のある人への配慮が常態に行われている。新型コロナウイルス感染症対策として令和3年度は小規模分散型でのイベント開催となった中で、より多くの人との関わりを深めることができるよう、前年度に比べてイベントの開催回数や実施場所を増加したことにより、地域とのつながりや人的ネットワークが拡大するなど、市民等のシチズンシップ向上にも寄与した。
市民サービス	市民サービス向上の取組がされているか		
市民ニーズ	市民ニーズが的確に把握されているか		
シチズンシップ等の向上	市民のシチズンシップや団体の公共的分野を担う力の向上につながっているか		
地域経済活性化	地域経済の活性化への配慮がされているか		
経費節減等	効率化、経費節減の取組がされているか		
<b>2 事業実施状況</b>		<b>A</b>	これまでに培われたノウハウを活かし、障害の有無にかかわらず共に企画運営を行うプロセスを引き続き大切にしながら様々な手法で障害について考える場面を創出したほか、各イベントの開催にあたっては計画的に話し合いを重ねるとともに、その進捗状況をSNSを通じて随時発信するなど、事業の透明性の確保にも積極的に取り組んだ。
計画性・透明性	計画的に事業が実施され透明性が確保されているか		
収支状況	収支状況が適切かつ良好であるか		
<b>3 事業執行体制</b>		<b>B</b>	福祉に造詣の深いコアメンバーを中心に、幅広い世代のボランティアが多数事業に参画することによって様々なアイデアが生み出されており、そうした状況が事業の活性化や一体感を高める原動力となっている。緊急時における責任体制は明確であり、個人情報に関しても適切に管理している。
人員配置	合理的な配置であるか		
危機管理	事故時等の体制等が整備されているか		
情報管理	個人情報等の管理が適切であるか		

<b>主に取組んでいる事業内容・進捗状況</b>
<p>障害の有無にかかわらず多くの人が参加するミーティングをイベントごとに開催しており、「出会う」というキーワードを中心に意見交換等を積み重ねながら事業を実施している。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、小規模かつ分散化して「ミーツ・ザ・福祉キャラバン」、「バリア探しゲーム」、「おとなりさんのセカイ」、「声のないお店」、「ヒューマンライブラリー」等の複数のイベントを開催し、約1,900名の参加者を得た。</p> <p>また、市内のコミュニティ掲示板へのポスター掲示のほか、市立の保育所から高等学校までの幼児・児童・生徒へのパンフレット配布や、FacebookやInstagram、Webサイトを有効に活用した情報発信を行うなど、積極的に事業の周知に取り組んだ。</p>

<b>取組んでいる事業内容等の評価</b>
<p>コロナ禍において従前のような大規模イベントの開催が困難な状況の中、小規模イベントを分散化して開催したことにより、前年度に比べてイベントへの参加者は大幅に増加しており、イベント当日のみならず、イベント開催に至るプロセスを通じて障害のある人とない人との交流や関わりがより一層拡がり、相互理解が深まったと思われる。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される状況が続き、イベント開催に向けては常に数多くの困難に直面しつつも、障害のある人もない人も一緒に楽しく場をつくらう、という思いを絶やすことなく、精力的な取組みが行われた。</p>

総合評価	評価の理由、今後の課題等
<b>A</b>	<p>イベントの分散化により、一年を通して福祉や障害について考える機会や障害のある人が様々な分野で活躍する場を創出し、幅広い世代のボランティアが数多く関わるなど、市民等のシチズンシップの更なる向上に寄与しており、障害のある人がより一層、主体者として参加していく仕掛けや効果的なアプローチ等の深化も期待できる。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況にあるが、従前のような大規模イベントの開催を望む声もあり、今後の感染状況や社会情勢等を見極めながら慎重に判断していく必要があると考える。</p>

\* 評価は、A～Dの4段階評価とする。  
 \* 確認調査の結果をチェックリストに記入する。更に1～3の大項目ごとに評価を行った後、総合評価を行うこと。  
 \* (評価項目1) 行政実施時と比較して、A:非常に効果があった。 B:効果があった。 C:同等の実施水準であった。 D:実施水準が下がった。  
 \* (評価項目2, 3) A:非常に良好であった。 B:良好であった。 C:やや改善の余地があった。 D:多くの改善すべき点が見受けられた。

## 尼崎市提案型事業委託評価表

	評価実施年月日	令和5年3月31日
	作成年月日	令和6年2月27日
事業名	市民福祉のつどい開催事業	
事業者の名称	NPO法人月と風と	
契約期間	令和4年 4月 1日 ~ 令和5年 3月31日 (二期目 3年目)	
業務の概要	市民福祉のつどいの企画運営業務	
所管課・課長名	福祉局 法人指導・障害福祉担当部 障害福祉課 名越 安砂子	
評価対象期間	令和4年 4月 1日 ~ 令和5年 3月31日	

評価項目	説明	評価	評価コメント
<b>1 事業の効果</b>			
市民サービス	市民サービス向上の取組がされているか	<b>A</b>	イベント当日をはじめ、オープンミーティング等の様々な話し合いの場面においても手話通訳者の配置や情報支援機器を有効に活用するなど、障害のある人への配慮が常態的に行われている。新たに日中と夜間のいずれにもオープンミーティングを実施した結果、これまでとは異なる層の参加があり、人的ネットワークの拡大に寄与している。
市民ニーズ	市民ニーズが的確に把握されているか		
シチズンシップ等の向上	市民のシチズンシップや団体の公共的分野を担う力の向上につながっているか		
地域経済活性化	地域経済の活性化への配慮がされているか		
経費節減等	効率化、経費節減の取組がされているか		
<b>2 事業実施状況</b>			
計画性・透明性	計画的に事業が実施され透明性が確保されているか	<b>A</b>	イベントの開催にあたっては計画的に話し合いを重ねるとともに、その進捗状況をSNSを通じて随時発信するなど、事業の透明性の確保にも積極的に取り組んだ。
収支状況	収支状況が適切かつ良好であるか		
<b>3 事業執行体制</b>			
人員配置	合理的な配置であるか	<b>B</b>	福祉に造詣の深いコアメンバーを中心に、事業に賛同した多くのボランティアが参画することによって様々なアイデアが生み出されており、事業を盛り上げている。また、緊急時における責任体制は明確であり、個人情報に関しても適切に管理している。
危機管理	事故時等の体制等が整備されているか		
情報管理	個人情報等の管理が適切であるか		

<b>主に取組んでいる事業内容・進捗状況</b>
<p>イベントの開催に向けては、市民等が開かれた会議であるオープンミーティングを数多く開催し、意見交換等を積み重ねながら事業を実施している。今年度は3年ぶりに大規模会場で開催となり、飲食・物販のブース出展やワークショップ、「ミーツ・ザ・新喜劇」「バリア探しゲーム」等のコンテンツを実施し、2,500人の参加があった。イベント当日の新たなコンテンツとして「人間型ロボット」を実施し、外出困難な障害のある人と会場の人とが交流できる仕組みを取り入れた。</p> <p>また、市内のコミュニティ掲示板へのポスター掲示のほか、市立の幼稚園から中学校までの園児・児童・生徒へのパンフレット配布や、FacebookやInstagram、Webサイトを有効に活用した情報発信を行うなど、積極的に事業の周知に取り組んだ。</p>

<b>取組んでいる事業内容等の評価</b>
<p>3年ぶりの大規模会場での開催となり、ポスターの掲示やパンフレットの配布などにより積極的に事業の周知に取り組んだ結果、前年度に比べてイベントへの参加者は大幅に増加している。イベント当日には90名のボランティアが参加したほか、市民・関心のある方が開かれた会議である「オープンミーティング」を「日中の時間帯」と「夜の時間帯」で多数開催してイベントの企画運営を行うことにより、障害のある人となし人との交流や関わりがより一層広がり、相互理解が深まったと思われる。</p>

総合評価	評価の理由、今後の課題等
<b>A</b>	<p>新型コロナウイルス感染症影響により3年ぶりに大規模会場での開催となり、最大規模であった令和元年度には届かないものの、昨年度と比べ大幅に参加者が増加した。イベント当日だけでなく、一年を通して福祉や障害について考える機会や障害のある人が様々な分野で活躍する場を創出し、数多くのボランティアが関わるなど、市民等のシチズンシップの更なる向上に寄与している。</p>

\* 評価は、A～Dの4段階評価とする。

\* 確認調査の結果をチェックリストに記入する。更に1～3の大項目ごとに評価を行った後、総合評価を行うこと。

\* (評価項目1) 行政実施時と比較して、A:非常に効果があった。 B:効果があった。 C:同等の実施水準であった。 D:実施水準が下がった。

\* (評価項目2, 3) A:非常に良好であった。 B:良好であった。 C:やや改善の余地があった。 D:多くの改善すべき点が見受けられた。